



平成19年度地球環境パートナーシッププラザ運営概要
有限責任中間法人環境パートナーシップ会議



■はじめに

地球環境パートナーシッププラザ(以下GEIC)は、平成19年4月1日から、有限責任中間法人環境パートナーシップ会議(以下EPC)が運營業務の委託を受け、運営をおこなっています。
本誌は、GEICの運営方針や運営体制、また平成19年度の取り組みの概要を、5つの事業にそってとりまとめました。

■GEICについて

GEICは、事業の委託者である環境省、受託者であるEPC、施設を提供している国連大学が資源を持ち寄り、共同で運営するパートナーシップの推進組織です。運営の方針策定・実施・評価については、3者の代表者に加え、9名の有識者からなる『GEIC運営委員会(岡島成行委員長)』が行います。多様なセクターからの人材が参画することで、柔軟で躍動感ある事業を運営しています。



協創円卓会議の様子



G8にむけて海外から講師を招く



展示、もったいないばあさん



展示出展者がラジオ出演

■GEICの使命と運営方針

GEICでは、これからの10年間に実現すべき目標としてG EICnext10を策定し、『市民力の創出』がこれから10年間の大きな目標であることをかくにんしました。さらに、これから3年間をパートナーシップを生み出していく『協創のステージ』に位置付けました。さらに、パートナーシップ形成のプロセスを通じて、3つの方針「人づくり」「仕組みづくり」「情報共有のデザイン」を念頭に入れつつ、持続可能な社会の実現のために事業を展開していきます。



GEIC・next10
これから10年を視野
に入れたGEICの方
向性を示しています

3

つの方針

- 「人づくり」
- 「仕組みづくり」
- 「情報共有のデザイン」

1

GEICの使命

GEICは、持続可能な社会の実現のために、人や組織が出会い、対話し、課題解決するための機会や仕組みをつくることによって多様な主体の参加による市民力の創出を目指します。

■5つの事業

GEICでは、これまでの10年間に蓄積してきた情報センター機能、NPO支援機能を土台に、5つの事業を通じて持続可能な社会の実現のためにパートナーシップを創出していきます。

5つの事業

■持続可能な地域づくり（詳しくはP3へ）

地域に住む人が積極的に活動できる活動モデルを構想し、普及をサポートしていきます。

■みんなで作る環境政策（詳しくはP4へ）

NPOの政策作りの場への参加と、行政担当者・NPO・市民・企業の相互理解の促進を目的に、対話の場づくりをおこないます。

■企業と他セクターの連携（詳しくはP5へ）

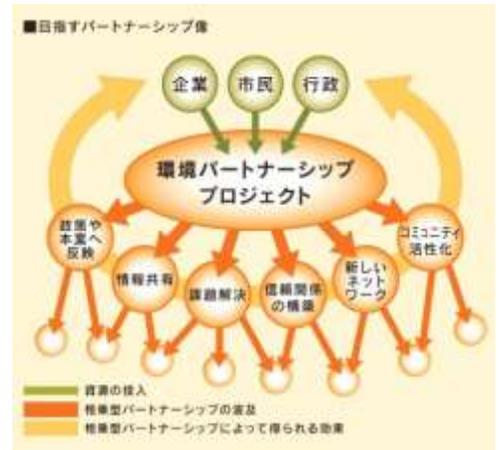
企業とNPOがであり、交流を深め、お互いの変革をもたらすような関係に発展させていくためのお手伝いをします。

■EPO事業（詳しくはP6へ）

地域のNPOとの協働で設置された全国7カ所の地方環境パートナーシップオフィスとネットワークを共有します。また関東圏内のネットワーク形成を行います。

■情報とコミュニケーション（詳しくはP7へ）

様々な人や組織が出会い、つながり、新しいパートナーシップが生まれるような土壌をつくっていきます。



出会う場があります

最先端の取り組みを学んだり、様々な分野の方と対話ができるイベント、セミナー、意見交換会へのご参加をお待ちしています。

協働で事業を企画できます

GEICの資源をご活用いただき、相乗効果を生み出していくような事業をぜひとも一緒につくっていきましょう。

豊富な情報が 있습니다

情報誌、インターネット、館内の資料を通じて、NPO・行政・企業・中間支援組織の活動情報、パートナーシップの事例を受発信できます。

様々な相談にのります

「企業とNPOの協働・CSR・SR」や、「地域づくり」、「政策への参加」など、パートナーシップに関する課題についてお気軽にご相談ください。



集いででの発表里山保全活動



講座の様子



GEIC運営委員



学生ボランティアえこたま

■有限責任中間法人環境パートナーシップ会議について

環境保全活動をより実効性のあるものにしていくには、現状の意思決定の仕組みよりも、より効果的な手法を創り出していくことが肝要と考えます。単独の組織では解決できない課題について、多様な主体の参加によってプラットフォームを形成し、そこで得られた成果や知見をまとめ、新しい状況に対応するパートナーシップの手法やシステムの開発、コーディネートを行うことが必要と考えています。（代表理事 廣野良吉）



持続可能な地域づくり

この事業の概要

市民が中心となり、行政や企業との連携しながら行う実践的・継続的な環境活動及び地域の経済社会の活性化にも貢献するモデルの普及をサポートする。



◆地域再生協創モデル事業

■事例調査:5箇所

- 三井住友海上保険 屋上農園
- けやきコミュニティハウス
- けいおうふれあいの森
- NPO支援センターちば おーい船形
- 足立グリーンプロジェクト

■「環境まちづくりフォーラム」の開催

環境まちづくりをテーマに、各地の活動事例紹介や現地見学を実施することで、同様の課題を抱える地域に対して情報交換の場を設けた。

- 第1回「地域みんなで作る街の畑」
大塚敦子氏(フォトジャーナリスト)
平田裕之(GEIC)参加者:40名

アンケート抜粋

よかった	ふつう	良くなかった
89%	11%	0%

- 第2回「障がい者×近郊農業＝地域づくり」
石田周一氏(社会福祉法人グリーン代表)、
宮奈由貴子氏(特活)NPO支援センターちば)
参加者:21名

アンケート抜粋

よかった	ふつう	良くなかった
77%	13%	0%

- 第3回 コミュニティ・ガーデン現地見学会
六町エコプチテラス(東京都足立区)

■この事業がもたらした成果

千葉県野田市では、福祉と環境が融合した先駆的な事例として、現地調査を行い2月のフォーラムで発表したことによって、当事者が自らの取り組みの価値を再認識する効果があった。また、調査のために面接などを行う過程でNPOと行政の対話を促進できた。ワークショップを実施する際には、様々な立場の人が参加するが、NPOの活動する場を陰で支えている立場の行政職員同士の情報交換があった。

◆イノバティブコミュニティ支援

■～持続可能な地域作りに向けた“協働のツール”ワークショップ～

- 第1回: 協働型資金調達手法に関するワークショップ
- 第2回: 協働・合意形成ツールに関するワークショップ
- 第3回: 自立的な活動形態・活動モデルに関するワークショップ

コミュニティに革新をもたらす6要素についての調査を行い、開発・改良や普及方策の検討に協力した。ワークショップの企画、およびツール集の作成にあたり、国連大学、外部コンサルタントが実施する企画会議に参加し、取り上げるべき項目出し、事業推進の際の課題、ワークショップ講師の人選などの必要な情報を提供した。

◆地域づくり活動の国内外情報交流事業

国内で活動する環境保全団体の技術・知識を、国際支援の枠組みで活動する団体とが交流し、ノウハウを共有することで、互いの活動の相乗効果を高める。この会議により、それぞれの団体のレベルアップに必要な経験・視点の交換をすることにより、市民セクターの持続可能な社会づくりを行うスキルアップを目指す。

■国内外地域づくりの協創円卓会議 スピーカー

- ・途上国支援の現場から(JICA地球ひろば:白井氏)
- ・海外の事例発表(NPO法人ソムニード:竹内氏)
- ・国内事例の海外への応用
(NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット:鬼沢氏)
- ・国内の事例発表(NPO法人伊万里はちがめプラン:福田氏)
- 共催:JICA地球ひろば
- 後援:NPO法人国際協力NGOセンター(JANIC)

■西バルカン地域 市民参加による持続可能な地域づくりと環境保全

JICAが実施する事業に国連大学と連携して事業支援を実施。



みんなでつくる環境政策

この事業の概要

セミナー、ワークショップの形式で、環境政策について聴き、理解する会を設ける。また自らが政策づくりに関わられるようになるための情報提供(好事例の普及など)を行う。G8サミットにおいては、啓発活動支援を行う。



◆環境政策意見交換会

●環境政策ブリーフィング&意見交換会

- 第1回 11月22日 『地球温暖化』
- 第2回 12月 8日 『生物多様性』
- 第3回 1月 8日 『政策づくりワークショップ』
- 第4回 1月17日 『ESD&パートナーシップ』
- 第5回 3月 6日 『循環型社会づくり』

環境省の政策担当者から、プレゼンテーションがあり、過去に選ばれた政策提言について応募者からの発表を実施。その後グループディスカッションを行った。

各回とも活発な意見交換がされ、参加者と環境省担当者間の相互理解、政策に対する理解が深められた。

◆環境政策研究会

●研究会の実施 (3回)

- 第1回(8月23日) 『地球温暖化』
- 第2回(11月 2日) 『温暖化防止目標達成計画』
- 第3回(3月 4日) 『環境保全活動』

温暖化防止対策について、環境省担当者と関連NGOとの具体的な議論をする場をつくることのできた。参加者は会合のクオリティを高めるため、公募ではなくある程度指名して参加要請したため、日程調整に時間がかかった。

■この事業がもたらした成果

行政職員がNPOのスタッフと本音で話す機会というのは少なく、貴重な経験であるとのこと。行政の立場でなく一個人としての意見を出すというルールを決め、かつセミクローズな場であれば、行政の職員も本音を語る事ができ、段階的にセクター間での交流促進につながっていくものと考えられる。本事業が具体的な成果を出すまでには時間を要するが、ベースとなる対話の機会は、NPO、行政の双方にとって、長期的に見れば大きな財産になると考える。

◆政策提言フォーラムとフォローアップ

●ワークショップ開催

昨年度の政策提言フォーラムの実施のサポートを行った。今年度についてはブリーフィング開催時に募集について説明を行い、また他のセミナーなどでも募集チラシを配布した。

1月8日には政策づくりワークショップを意見交換会の1回として開催。審査委員と参加者との直接的な意見交換ができた。

◆G8サミットに向けたNGO活動支援

●NGO活動の後方支援

7月から毎月の連続勉強会開催、省庁との打ち合わせや、兵庫県、千葉県との情報交換などG8関連会議に向けた情報収集の支援を行った。

●NPO情報提供

関心を持つ企業にG8に向けて取り組むNGOの紹介や課題点について情報提供を行った。
情報提供先: 電通、博報堂、アサツ-DK など

■この事業がもたらした成果

NGO同士のつながりをつくりことができた。NGOでも分野や関心事項が違っていると互いを知らないケースが多く、会議を複数回開催することによって相互理解を促進することができた。NGOと環境省の間のつながりをつくることもできた。外務省と距離があったNGOや環境省の間でコーディネートをすることで距離を短縮する手伝いができた。



企業と他セクターの連携

この事業の概要

NPOと企業が交流するための機会を創出する。企業とNPOが交流することで、効果的なCSR活動が行えたり、パートナーシップを構築していくために必要な事業提案力を強化できる。



◆協創円卓会議

- 7月10日(火)『外食産業のCSR』
8月24日(金)えこりん村現地見学会
スピーカー:佐々木氏(株式会社アレフ)
ファシリテーター:青木将幸氏 参加者:40名
- 11月9日(金)『10年後の住まい』
スピーカー:木村文雄氏(積水デザインラボ)山田貴宏氏、小林光氏(環境省) 参加者:35名
- 2月26日(火)『地球温暖化と漁業資源の将来』
スピーカー:井田徹治氏 小松正之氏 参加者:38名
- 3月21日パートナーシップカフェ『黒田かをりさんと語ろう社会的責任～ISO26000勉強会～』
スピーカー:黒田かをり氏

満足度	満足・やや満足	ふつう
第1回報告 第1回ワーク	75% 70%	25% 11%
第2回報告 第2回ワーク	78% 72%	17% 18%

第1回・第2回円卓会議アンケート抜粋



■この事業がもたらした成果

北海道ツアーでは、北海道EPOでインターンをする大学生がファシリテーターを初体験。その数ヶ月後、鬼沢委員が参加した別のセミナーで同じ大学生がファシリテーターを務め、その手腕に多くの参加者が感心したというエピソードがあった。ひとつのきっかけを契機に、学生が飛躍的な成長を遂げたことは、この事業がもたらした成果と言えるだろう。

◆企業のCSRを通じたパートナーシップの推進への協力

株式会社リサイクルワン受託事業への協力。昨年パシフィックコンサルタンツが実施した中小企業のCSR調査の継続版。地方EPOと連携し、地域事例の掘り起こしやマッチングの手法などを調査する。H19年12月に第1回検討委員会を、H20年3月に第3回検討委員会を開催の協力。

◆パートナーシップの相談対応

企業のCSR担当者がGEICを訪れ、NPOについての情報や企業が行おうとしている活動へのアドバイスなどを求められた。アドバイスが実を結ぶことは少なく、また結んだとしても、相談者からの報告がない限りアドバイスとの因果関係を判明させるのは難しいが、LUSHの助成金プログラムや参加型植林携帯ゲームソフト開発など、いくつかの成果もみられている。また、環境見本市市内で実施した車座トークでは、複数企業のCSR担当者と複数NGOが「ぼやき」をテーマにざっくばらんに意見交換をし、それがその後の事業へつながった。

●車座トーク

7月7日に開催されたボランティア見本市市内において開催。複数企業のCSR担当者とNPOが課題について意見交換を行った。

●CSR相談

伊勢丹、日興コーディアル、クインランド、ピーアールコンビナート、LUSHジャパン、フィリップモリス、NHKエンタープライズ、カシオ計算機、松下電工、東芝、日本製紙、ライブウエア、日産自動車、経団連、プロペラ、ホールアース自然大学校、全労済、さえびり館、三菱UFJリース、株式会社タウ、「24時間テレビ」チャリティー委員会事務局、ホンダ、ぐるなび、日本リサーチ総合研究所、寺岡精工、日本通運、大成建設、東急エイジェンシー、東京港野鳥公園グリーンボランティア、大成建設、東急エイジェンシー、千葉県、東京電力、キューピー、ほか

■この事業がもたらした成果

今年度はふたつの事例が誕生した。ひとつは株式会社LUSHジャパンが自社製品の売り上げでつくる基金「チャリティバンク助成プログラム」を開始。助成プログラムを通じて、社員とNPOの交流を目指している。もうひとつは、株式会社ライブウエアがはじめた携帯植林ゲーム「エコゲー→フォレスト」。ユーザーが貯めたポイント分の植林をNPOとのパートナーシップで行うというユニークな取り組みは、日経産業新聞でも大きく取り上げられた。



EPO事業

この事業の概要

関東地域の環境NPOのネットワーク支援等の活動を進める。また、本年9月の九州EPOの設置により全国8箇所での整備が整った地方EPOについて、その円滑な運営のための助言や支援等を行う。



◆全国EPO連絡会の開催

- 全国EPO連絡会の開催(10月23~24日)
地方EPOスタッフ1~2名と地方事務所職員とGEICスタッフで円卓会議方式でグループディスカッションによる討議を行った。
- GEICホームページ、メーリングリストによる情報共有、事例紹介
普段からの情報交換。GEIC発信でなくとも、各EPOからの課題や質問に対して情報交流ができるようになった。

■この事業がもたらした成果

九州EPOが開設し、はじめての全国連絡会開催となった。顔の見える関係づくりができることによって、共有化された課題を解決するためのネットワークが構築されつつある。

◆関東パートナーシップ事業

- キーパーソン、情報拠点のヒアリング実施、ニーズ調査(アンケート)の実施
 - ・関東事務所との調整会議
 - ・政策ブリーフィング&意見交換会
 - ・関東圏のキーパーソンヒアリング(群馬・新潟・千葉・静岡・山梨・埼玉・神奈川)
- 各種地方開催のイベントに参加、情報収集(新潟・千葉・神奈川)
- 関東つながり会議の開催
2月2日に実施(ESD-Jの実践者交流会と同時開催)
各県からのキーパーソンが数名、研究者やNGOも参加し、つながりをみつけるワークショップを実施。

◆コミュニティファンド支援事業

コミュニティファンドとその支援先のサポートを通じ、中間支援の新たな形を考える。
関東の2つのコミュニティファンドと合計4回のワークショップを、各ファンドと協働で実施。

- 全体事業
 - 中間報告会の開催
- 女性・市民信用組合設立準備会(WCC)
 - みんなのWE21にするために
 - ・支援先:(特活)WE21ジャパン相模原
 - 自宅でエネルギーをつくる方法
 - ・支援先:オルタスクエア株式会社
- 未来バンク事業組合
 - 「石油を使わない“暖”」
 - ・支援先:(有)さいかい産業
 - 「日本の木に住まう“天然住宅”」
 - ・支援先:(株)AMBIEX



全国7ヶ所の環境パートナーシップオフィスと連携

全国7ヶ所の地方圏地パートナーシップオフィス(EPO)との連携を図りつつ、各地での環境活動の活性化にパートナーシップ促進を目指します。



情報共有とコミュニケーション

この事業の概要

展示・ライブラリー、インターネットや紙媒体による情報の受発信、イベント等を通して、人や組織が出会い、つながり、新しいパートナーシップが生まれる
土壌をつくります。多くのステークホルダーと事業を共に作りあげるプロセスをふむことで成果を生んでいます。



◆環境ボランティア促進

- 冊子「やってみよう！環境ボランティア」改訂
経験者の体験を加えた改訂版発行
- 「環境ボランティア見本市」開催（7/7）出展22団体
- ボランティア・ウィーク開催（12/2～22）
 - ・GEIC館内で、NPOへの寄付イベントとしてドネーションカフェ開催。
 - ・環境NGOの集い開催（12/8）。地球環境基金30団体発表会。NGOで働くことをテーマにシンポジウムを開催した。参加29団体。申込105名。
- 学生ボランティア、インターン受入れ
 - ・7名のインターンを受け入れ。学生ボランティアグループ『えこたま未来会議』開催（全5回）。
- ボランティア相談対応
 - ・企業から社員のボランティア活動について相談を受ける（CSR事業に記載）。
 - ・ボランティア見本市での「車座トーク」を開催。企業とNGO、一般希望者とNGOでグループディスカッションを開催。
- 廃食油などの回収拠点
廃食油・放置傘・自転車グリーンマップの回収・配布
- 他団体との連携・協力



◆企画展示・水俣展示

- 企画展示
 - ・2007年4月～2008年1月の間に10回の企画展を開催。うち3回は、GEICが企画に関わることで、展示団体が地域や他団体とのパートナーシップを生み出したことから、企画展示がパートナーシップを生み出すことを実証できた。
- 水俣病問題の展示
 - ・2007年9月～12月に東京、水俣市、新潟市の3カ所でステークホルダー会議を開催。
- GEICリニューアル・ワークショップ／パンフレット改定
 - ・GEIC設立から10年を経たことを契機として、「集い、つながる」をキーワードに、施設の在り方を検討した。
 - ・新生GEICの事業や体制を紹介するパンフレット作成を並行して実施した。

■この事業がもたらした成果

「もったいないばあさんのワールドレポート展」
真珠まり子さんが貧困や戦争で苦しむ世界の子供たちと日本に生きる私たちの暮らしの関係を伝えることを目的としていたため、期間中は小さな子ども連れの家族の来訪者が増えた。また、GEICが働きかけて、子どもの城の保育施設から子どもたちが真珠さんの話をお聞きする機会を設けた。

●この事業がもたらした成果

環境ボランティア見本市で知り合ったNICE(国際ワークキャンプ)と東京港野鳥公園ボランティアが企業のボランティア活動で協力。これは、環境ボランティア見本市の企画、準備の段階でNICEと東京港野鳥公園のボランティアグループが出会い、互いに良く知り合う関係になったことによって実現した協働であり、本事業のアウトカムが発揮された事例である。

◆パートナーシップカフェ、エコ246

- パートナーシップ・カフェ ～この人と語ろう～
ゲストとじっくり語り合おう、というコンセプトで「カフェ」を開催。
 - 第1回：『つな環』第10号特集「地域づくり」から
 - 第2回：社会教育施設を使いこなす
 - 第3回：金融機関と中間支援組織
 - 第4～8回：ボランティアウィーク、ボランタリーフォーラムに参加するNGOの活動を紹介
 - 第9回：地球規模問題に取り組むNGO活動
 - 第10回：これからのSRを考える

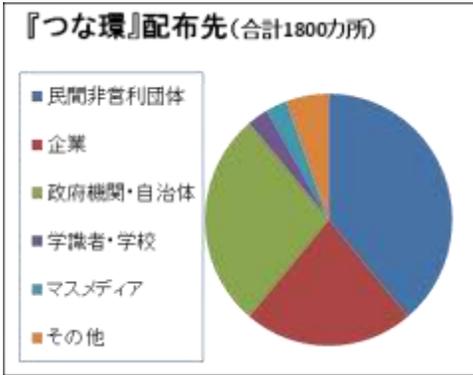
●パートナーシップ交流会 エコ246

12月8日開催。参加者38名（企業、NPO、その他一般）



◆機関誌『つな環』の発行

- 『つな環』第11号:2007年12月 『つな環』をふりかえる(4000部)
- 『つな環』第12号:2008年3月 地球規模問題とパートナーシップ(4000部)
- セミナーの開催:2007年7月
第10号の外部編集員をお願いした西川正氏を講師に招き、セミナーを開催。



- GEIC事業の柱に沿って検索できるようTOPページを中心に修正
- つな環・メルマガの送付先の再検討と団体データベースの整理
目標＝メルマガ(登録者数10%増加)、らんぱん閲覧数(20%増加)、登録団体数(3年で20%)、ホームページヒット数(10%増加)ともに、今年度の数値目標を達成することができた(上記一覧参照)。

GEICにおける情報媒体発行状況(過去5年)

年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007(備考)
メルマガ発行数	1909	2178	2506	2994	3280	3590(年度最終号で比較)
(対前年比)		114%	115%	119%	110%	109%
らんぱん閲覧数	54424	66276	76126	146357	209207	330277(各年度の平均)
(対前年比)		122%	115%	184%	143%	159%
らんぱん登録団体数	485	564	617	739	775	807(年度最終の登録団体数)
(対前年比)		116%	109%	120%	105%	104%
ホームページ閲覧数	103440	83825	112537	140134	236959	312939(各年度の平均)
(対前年比)		81%	134%	125%	159%	132%

- EPO会議室・小会議室・印刷機のNPOへの貸し出し施設利用回数状況
(4月～12月合計、()内は利用団体数)
GEIC来館者数13662(89.1/日) 会議室 237回(148) 印刷機 144回(110) EPO庵 202回(136)

◆環境パートナーシップ研修

- 環境教育担当者会議ワークショップ参加者:63名
分科会1:地域環境プロデューサー養成講座
分科会2:ESD事例研究
分科会3:温暖化から広がる・つながる環境教育
- 環境パートナーシップ研修参加者:60名
場所:環境省環境調査研修所(所沢)
- その他の環境パートナーシップ関係の研修実施実績
合計4回 103人受講
 1. 島根県地球温暖化防止活動推進員研修(6月)12人、
 2. 全国公民館研究集会(10月)30人、
 3. 化学物質アドバイザー研修(10月)10人、
 4. 全国市町村職員ごみ減量研修(12月)51人。

◆ライブラリー・施設の運営、来館者対応

- 展示スペース・ライブラリーの活用、リニューアル
 - ・ESD、気候変動とG8の新コーナーを開設。
 - ・館内リニューアル/スタッフ・運営委員・学生ボランティアでワークショップを開催。(全2回)
 - ・ワークショップからタスクチームを結成。「集う・つながる」をキーワードに具体的なプランを進行
- 相談・訪問対応シートの共有と蓄積
 - ・相談記録シートを採用/個別相談についての記録を蓄積した。(CSR事業で報告)

●この事業がもたらした成果

全スタッフ・関係者が集まって「パートナーシップを可視化する」「様々な人が集い、つながる場所」という共通理念をもつことができた。また、学生とスタッフが具体的な事業を共にすすめていきっかへととなった。



◆他団体協力・連携

●他団体協力:

アースデイ2007記者発表、天ぷら油リサイクルステーション、シブカサステーション、アースデイ2008企画会議、広がれボランティアの輪、日本ボランティア・コーディネーター協会、千代田ボランティアセンター「グリーンマップワークショップ」、ボランティアウィーク共催団体(5団体の中間支援組織)、(財)日本野鳥の会、舞岡公園小谷戸の里管理運営委員会、東京ランポ

●外部講師など:

東京ボランティア・市民活動センターフォーラム協力、全労済助成金審査、緑の学校全国フォーラム、ボランティア研究会東京大会、日経新聞社エコリユクス、環境学習施設研究会、湘南工科大、国連大学グローバルセミナー、ボランティアコーディネーター研究集会、全国社会福祉協議会、明治大学経営学部、(財)日本環境財団、環境省環境調査研修所、エコ・リーグほか

●受け入れ:JICA研修、東京ワンダーサイトほか

●寄稿:「ボランティア白書2007」日本青年奉仕協会、「ボランティアニュース」全国社会福祉協議会、「ボランティアコーディネーター白書2007」「VOLO」大阪ボランティア協会、「資源環境対策」環境コミュニケーションズ

パートナーシップで変わったものは何ですか？

「人と、人と、人をつなぐ。」

コーディネーターを務めるキーパーソンのみなさんに、それぞれの「1+1+1=□」を聞きました。



世界を飛び回るCSRの専門家



若者のパワーをつなぐNPOスタッフ



新木林を守ったコーディネーター



東洋を背景に交える中小企業社長



地域をつなぐ地方EPOスタッフ



地域価値を広げるNPO事務局長



GEICを支える学生ボランティア



人が活きるまちを創る行政職員



農村と都市をつなぐNPO代表



もっといい世界をつなぐ編集者



地産企業人、週末はNPO代表

パートナーシップは、
あなたが抱える「問題」を、
「可能性」に変えます。



新しいつながるGEICスタッフ



Global Environment Information Centre
地球環境パートナーシッププラザ

〒150-0001

東京都渋谷区神宮前5-53-70 国造大学1F

TEL. **03-3407-8107**

FAX.03-3407-8164

●開館時間：午前10時～午後7時30分(火～金曜)

午前10時～午後5時(土曜)

●休 館 日：日曜・月曜・祝日・年末年始・第4金曜日

EPO(環境パートナーシップオフィス)

〒150-0001

東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B2F

TEL.03-3406-5180 FAX.03-3406-5064

●開館時間：午前10時～午後9時(火～金曜)

午前10時～午後5時(土曜)

●休 館 日：日曜・月曜・祝日・年末年始

●最寄り駅

・表参道駅から徒歩5分
(東京メトロ：副都心線・千代田線・半蔵門線)
B2出口を出て、そのまま道沿いに南進し、
約5分ほどお歩きください。

・渋谷駅から徒歩10分
(JR・東急・京王の路線・東武メトロ)
東口を出て、益広坂を南進してください。
こどもの城を過ぎてすぐの建物です。



携帯サイトで地図を
ダウンロードできます
<http://www.geic.or.jp/>



<http://www.geic.or.jp>

新しいパートナーシップへのアクセスは、こちらから！

GEIC |

検索

2008年3月